

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	経済学部	身分	教授
氏名	丸山 佳久		
NAME	MARUYAMA Yoshihisa		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記のとおりご報告いたします。

1. 研究課題

「まち・ひと・しごと」創生のためのメソ会計モデルの構築

2. 研究期間

2020・2021・2022年度 ※2022年度は新型コロナウイルス感染症特例対応により1年間延長

3. 費目別収支決算表

掲載省略

4. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

本研究は、地方創生におけるSDGsの実践として、自治体等が地域活性化の活動をマネジメントするために必要な会計モデル（メソ会計）を用い、地域経済の経済的・社会的価値の改善を図ることを目的とした。2017年度-2019年度にかけて、科研費（16K04004）を用い、森林生産物（木材）というマテリアルのフローを媒介として、木材加工のSC（Supply Chain）の各プロセスを担う個別事業体の取引データを結びつけ集計する、ネットワーク型の地域のフロー会計を開発した。マクロ環境会計では、SEEA2012-CF（System of Environment-Economic Accounting 2012- Central Framework）が国際基準となり、その中で、森林に関わるストック会計が提案された。本研究は地域のフロー会計と、SEEA2012-CFにおけるストック会計とを組み合わせる形で、森林（ストック）および森林生産物（フロー）を対象として、ストック・フローの統合的なメソ会計をモデル化した。本研究は、岩手県遠野市の遠野地域木材総合供給モデル基地（遠野木工団地）を対象に、このメソ会計モデルの実践を図り、事業体に対する補足的な聞き取り調査を加え、事業体間のコミュニケーションが不足し、取引に必要な情報（価格・品質・納期）が共有されていないという、産業クラスターが抱える課題を明らかにした。シミュレーションゲーム（ビールゲーム）の実施を始め、事業体間のコミュニケーションを改善させるためのワークショップを、遠野木工団地において複数回にわたり実施した。

（英文）

The purpose of this study was to improve the economic and social value of the regional economy using a meso accounting model. The meso accounting model is in the form of a combination of networked regional flow accounting and stock accounting in SEEA2012-CF (System of Environment-Economic Accounting 2012- Central Framework). This study implemented the meso accounting model in the forest industry cluster in Tono City, Japan, and found local issues (e.g., lack of information sharing among entities). Workshops were conducted to improve communication among entities, including a simulation game (beer game).